

# 「グローバル・ゼロ」への道程

中山 俊宏さん (津田塾大准教授) の問題提起

「あるべき世界」まで続く「核の秩序」考えよ



なかやま・としひろ 米国防  
治外交、共著「アメリカ外交の  
諸潮流」アメリカのグローバル  
戦略「イスラーム世界」42歳。

日本は核問題については特別な  
思い入れがある。しかし、私たちが  
オバマ政権を真摯に受け止める  
ならば「あるべき世界」について  
語ると同時に、「あるべき世界」  
にいたる道程について語らなければ  
いけない。それは他ならぬ、し  
ばらくの間は続くであろう核の世  
界秩序について語り、考えていか  
なければならぬというところだ。

核廃絶(グローバル・ゼロ)。  
オバマ大統領の遠大な構想には  
しばしば驚かされる。プラハにお  
いて「核なき世界」のビジョンを  
示し、核兵器を唯一用いた国とし  
ての道義的責任に言及したことは  
新鮮な驚きだった。

オバマ大統領は、核の問題に限  
らず、「あるべき世界」のかたち  
を説き、議論を展開していく。  
「核なき世界」が「あるべき世  
界」だ。だが「あるべき世界」と  
現実との距離はあまりに大きい。

オバマ構想に対しては典型的に  
二つの反応がある。一方は核廃絶  
への思いを投射して無条件に礼賛  
し、もう一方はその実現可能性を  
疑い徹底的にシニカルになる。し  
かし、双方とも大統領の言葉を額  
面通りに受け止めていない。

「核なき世界」まで続く「核の秩序」を考えよ  
神保 現代の核兵器をめぐる国  
際政治は多岐にわたっている。か  
つて、核戦略の中心は米ソ対立  
の戦略的安定性の問題だった。そ  
の後、戦略核の削減を主とする軍  
縮論(NPT)による不拡散  
論へと展開してきた。

神保 謙さん 慶応義塾大准教授



じんぼ・けん 国際安全保  
障、東京財団研究員、共著に  
「ミサイル防衛」「学としての  
国際政治」など。35歳。

だが、11以降、核テロは差し  
迫った脅威の認識が強まった。  
07年、シムル元国務長官「4  
賢人」と言われる核軍縮提言を  
した。オバマ演説もこの国際政  
治の流れの中に位置づけられる。  
吉田 冷戦時代は、米ソ両大国  
が核世界を管理する構図があり、  
抑止の前提となっていた。だが

今も最強の米国でさえ、核拡散を  
止める影響力が低下し、核兵器の  
存在が不安定な要因になってきた。  
核テロの危険を考えると、なほさ  
らだ、従って「核廃絶」を掲げ、  
それをある意味で世界を動かす手  
段として、核拡散による現実的な  
リスクを抑えていく。そんな戦略  
的計算がオバマ構想にはある。

中山 核廃絶をめざす「グロ  
バル・ゼロ」だが、冷戦時代の核  
にある種の安定効果があったとい  
うことを認めた上で議論する。核  
拡散技術の拡散防止という目  
標が、複合的に追求されている。  
従来の軍縮派と抑止派による議  
論だけでは、第3の派として、  
「世界の核兵器及び核関連物質  
の管理をどうするか」という新し  
い柱が、明確に立ち上がっている。

黒崎 日本を含め、国際社会が  
オバマ政権を支えていくという  
外から米国を動かす必要はない  
。来年はNPTの再検討会議  
がある。大統領は「ラハ演説」  
で、国家安全保障戦略の中から、核兵  
器の役割を縮小する。と「たて  
て」の認識が対話が必要になる。  
当然、同盟国との対話が必  
要になる。そうい認識が米国に  
も高まっている。再検討会議で  
ットオフ条約(④)もCTBTが  
進むわけではないが、オバマ政権  
の核軍縮や核不拡散、国際社会  
が共に積極的に協力して、いっ  
た勢を示すことが重要だ。

黒崎 輝さん 立教大兼任講師



くろき・てるあき 国際政治  
学、国際政治学、博士(法学)  
著書「核兵器と日本関係」で  
ソニー学芸賞。37歳。

中山 核軍縮の流れも、米国の  
国内の事情が大きくつまずく可  
能性がある。まず最初の関門は  
CTBT(③)の批准だ。上院で批  
准に必要な三分の二以上の支持  
を得る必要がある。この点に  
懸念するものは多い。これが  
危険性がある。

吉田 日米同盟という「核  
の傘」は柱の一つと言われる。北  
朝鮮の核問題や中国の台頭など  
、北東アジアの安全保障環境の  
変化に日本はどのように対応す  
るか。

黒崎 日本を含め、国際社会が  
オバマ政権を支えていくという  
外から米国を動かす必要はない  
。来年はNPTの再検討会議  
がある。大統領は「ラハ演説」  
で、国家安全保障戦略の中から、核兵  
器の役割を縮小する。と「たて  
て」の認識が対話が必要になる。  
当然、同盟国との対話が必  
要になる。そうい認識が米国に  
も高まっている。再検討会議で  
ットオフ条約(④)もCTBTが  
進むわけではないが、オバマ政権  
の核軍縮や核不拡散、国際社会  
が共に積極的に協力して、いっ  
た勢を示すことが重要だ。

吉田 中長期的には、中国の核  
状況は懸念する人が多い。  
神保 核軍縮の世界的動向の中  
で中国が次のステップをどうと  
らうとしているかと厳しく批判し  
た。だが、抑止の前提は、たと  
えば核兵器を使用することにある。  
「核の傘」を心配する。日本  
はNPTの核計画をむしろ歓迎す  
べきだ。米国は核兵器の役割を減  
らしているが、多様な事態に対  
するために今でも核は準備されて  
いる、という了解が日本国内で  
有されるのが健全なところだ。

吉田 文彦 本紙論説委員



よしだ・ふみひこ 80年、朝  
日新聞入社。ワシントン特派員  
などを経て現職。著書に「核の  
アメリカ」など。54歳。



「どっちからスタートする?」(START=戦略兵器削減条約)  
ペーター・ピスマストロピッチ  
©New York Times Syndicate

吉田の総括

## オバマ提案が問う我々の「本気」

オバマ大統領は、核廃絶にかけ  
る「本気」を示した。ロシア  
との首脳会談では新核軍縮条約に基本  
合意し、主要国首脳会議(G8)での  
声明にも「核のない世界」にいたる状  
況づくりの約束を盛り込んだのだ。  
「本気」なら、なおのこと次の諸  
国が「本気」を掲げるべきだ。核  
が気になると、核抑止に代わる安全保障  
体制は何か、どう実現していくのか、  
軍縮に持ったをかけるようでは、核廃  
絶は実現しない。

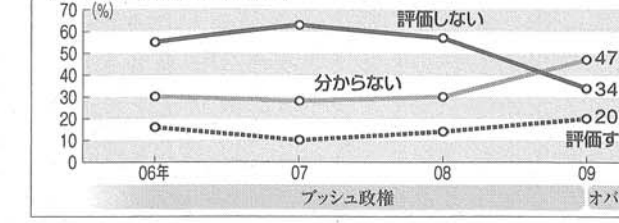
黒崎 今の話は非常に重要な  
。米国の核抑止力に依存するとい  
うことは、日本を守るという目的  
は、いまだに変わっていない。米  
国に核を使うことを想定し、そ  
れを容認するという意味がある。  
日本の関係が原爆被害を「しよ  
うがない」と言った時、国民は反  
発した。被爆者は二度と核兵器  
は使われてはならない」と長年訴  
えてきた。核抑止に依存するとい  
うのは、実はこの国民感情に反  
している。そういう現状が「核の傘」と  
いう言葉で覆われてきたのだ。  
ないか。核軍縮もあるが、非合  
理的な相手は核抑止は効かない。  
合理的な相手でも、核による抑止  
は失敗の可能性もある。

### 核兵器を全廃する国際条約に賛成か?

WorldPublicOpinion.org 08年1~2月に実施した  
21カ国調査から主要な核兵器保有国を抜粋

国	強く賛成	やや賛成	やや反対	強く反対
米国	39%	38	13	7
ロシア	38	31	8	6
中国	60	23	9	5
英国	55	26	9	8
フランス	58	28	7	5

### 米国政府首脳の仕事を評価するか?



### 東京財団レポート

核廃絶を国際世論も望んでい  
る。調査では核を持つ米ロ中英仏  
の国民の7~8割が国際条約によ  
る核兵器の全廃に「賛成」。核弾  
頭数が米ロより少ない中英仏では  
「強く賛成」だけで過半数。オバ  
マ大統領の目ざす世界と響き合  
う。当面の焦点は米ロの核兵器削  
減。条約をまとめるのに、両国の  
信頼関係は欠かせない。米国政  
府首脳の仕事ぶりへのロシア人の  
評価はオバマ政権になって好転し  
ているが、一番多いのは「分から  
ない」。核兵器問題でもしはら  
くはオバマ氏の「お手並み拝見」か。  
(細野豊樹・共立女子大准教授)

### 北朝鮮・中国の核 日本への進路は

核抑止が効くことを考えていたが、  
カストロ政権は、米国の空襲には  
キューバ配備のソ連の核を報復す  
る覚悟だったことが後年わかっ  
た。北朝鮮との緊張は当分続く  
が、「核の傘」を過信すると、通  
常能力による衝突が一気に核使用  
にエスカレートするリスクが高ま  
りかねない。むしろ米国の通常戦  
力による抑止の方が現実的では  
ないか。冷静な判断が必要だ。

吉田 中長期的には、中国の核  
状況は懸念する人が多い。  
神保 核軍縮の世界的動向の中  
で中国が次のステップをどうと  
らうとしているかと厳しく批判し  
た。だが、抑止の前提は、たと  
えば核兵器を使用することにある。  
「核の傘」を心配する。日本  
はNPTの核計画をむしろ歓迎す  
べきだ。米国は核兵器の役割を減  
らしているが、多様な事態に対  
するために今でも核は準備されて  
いる、という了解が日本国内で  
有されるのが健全なところだ。

黒崎 日本は「核の傘」を過信する  
と、通常能力による衝突が一  
気に核使用にエスカレートする  
リスクが高まりかねない。むしろ  
米国の通常戦力による抑止の方  
が現実的ではないか。冷静な判  
断が必要だ。

日本は大きな役割を果たせる。こ  
れまでも「核の傘」は水  
油のような関係だったが、グ  
ローバル・ゼロは、それが不可能  
ではないことを示している。